愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅳ
―猿投窯黒笹・東山地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査

大西 遼
（愛知県陶磁美術館 学芸員）

はじめに

愛知県は、古墳時代中期に国内屈指の古窯群である猿投山西南麓古窯跡群（以下、猿投窯）が開窯して以降、連綿と窯業生産を展開してきた地域である。日本全国を見ても、愛知県のように古墳時代から現在に至るまで、連綿と生産史を追うことのできる地域はない。

県下の窯業遺跡は、各時代の生産活動の様相を現代に伝えるものであり、当地の窯業史のみならず日本陶磁史の基礎資料として極めて貴重な情報を内包している。筆者は 2018 年以降、分布調査による地表面採集資料（表採資料）を対象に、実測図の作成を通した考古学的基礎的調査の報告を行ってきた（註１）。これらの調査の必要性・意義については、拙稿（註２）で述べてきたため、ここでは繰り返さない。

本稿では、引き続き表採資料を主対象に、令和 2（2020）年度に実施した愛知県陶磁美術館保管資料及び上田厚子氏寄贈資料の実測調査成果を踏まえ、概要報告を行う。報告する窯跡等遺跡の位置は図 1・2 のとおりである。本稿で実測図を提示するにあたって、図３に示した表現を用いる。また、猿投窯の生産品については、須恵器・青瓷・白瓷の三分類を用い、特に白瓷については施釉の有無及び古代・中世の別を問わず、たんに「白瓷」と表記するが、これについては前稿を参照されたい（註３）。なお、本稿では『愛知県史』（別編　窯業）の編年を参照し、各窯の編年的位置付けを行った（註４）。

１．猿投窯黒笹地区の須恵器窯出土品

（１）黒笹 6 号窯跡出土品（図 1・4）

1～14 は須恵器である。1～4 は杯蓋、5～11 は有台杯身、12 は高台の有無は不明だが杯身である。4 は盤となる可能性もあるが、以下の 2 点から杯蓋と考えた方が良い。1 点目は内面には降灰が無く､外面は口縁部屈曲箇所より 8 ㎜程内側を境に天井部側は降灰が無く、口縁端部側に降灰がある点である。2 点目は、前記の境界に他の個体と重ね焼きしたときについたとみられる釉着痕がある点である。9 の底部にはヘラ記号が認められ、3 本の直線とそれに直行するとみられる 1 本の直線が確認できる。10 の底部にも「|」のヘラ記号が認められる。13 は合子形有台杯、14 は高盤、15 は長頸瓶、16・17 は甕である。岩崎 25 号窯式期に比定できる。

18・19 は白瓷の椀で、高台に植物の茎の圧痕が見られる。折戸 53 号窯式期に比定でき、周囲に白瓷窯が存在し、そこからの混入品の可能性がある。愛知県陶磁美術館保管。

（２）黒笹 51 号窯跡出土品（図 1・4）

20～30 は須恵器である。10・21 は杯蓋、22 は無台杯身、23～25 は有台杯身、26 は無台椀、27 は甕、28 は壺、29・30 は長頸瓶である。28 は外面に黄土が塗布されて焼成されている。岩崎 25 号窯式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（３）黒笹 93 号窯跡出土品（図 1・5）

31～33 は須恵器である。31 は杯蓋、32 は無台杯身、33 は甕である。高蔵寺 2 号窯式～岩崎 25 号窯式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

２．猿投窯東山地区の瓷器窯出土品

（１）東山 G－68 号窯跡出土品（図 2・6）

34～39 は白瓷である。34・35 は椀、36・37 は輪花椀、38 は輪花小椀、皿である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（２）東山 G－9 号窯跡出土品（図 2・6）

40・41 は白瓷で、40 は椀、41 は小椀である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（３）東山 G－6 号窯跡出土品（図 2・6）

42・43 は白瓷の椀である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（４）東山 G－25 号窯跡出土品（図 2・6）

44～47 は白瓷である。44・45 は椀、46 は小椀、47 は片口鉢である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（５）名古屋市千種区田代町出土品（図 6）

48～50 は白瓷である。48・49 は椀、50 は小椀である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（６）東山 G－33 号窯跡出土品（図 2・7）

51・52 は白瓷の椀である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（７）東山 G－34 号窯跡出土品（図 2・7）

53 は白瓷の椀である。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（８）東山 G－31 号窯跡・東山 G－32 号窯跡出土品（図 2・7）

54 は東山 G－31 号窯跡出土品で、白瓷の椀である。55～57 は東山 G－31 ないし同 G－32 号窯跡出土品で、白瓷の椀である。いずれも初期山茶椀第 3～4 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（９）東山 G－22 号窯跡出土品（図 2・7）

58～60 は白瓷である。58・59 は椀、60 は小椀である。初期山茶椀第 3～4 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（10）東山 G－45 号窯跡出土品（図 2・7）

61～63 は白瓷である。61 は玉縁輪花椀、62・63 は椀である。初期山茶椀第 4 型式期に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

（11）東山植物園出土品（図 2・7）

64～69 は白瓷である。64～66 は椀、67 は小椀、68・69 は片口鉢である。初期山茶椀第 4 型式～尾張型第 5 型式期に比定できる。東山植物園内には、東山 G－１・16・19・73～75・100～102・104・105 号窯跡が存在し（註５）、いずれかの窯の出土品と考えられる。愛知県陶磁美術館保管。

（12）東山 G－76 号窯跡出土品（図 2・7）

70 は青瓷素地の椀と考えられるものである。砂粒をほとんど含まない密な胎土を用い、黄灰白のやや甘めの焼き上がりを呈する。器面にミガキは施されないが、回転ヘラ削りが施される底部を除き、全体に丁寧な回転ナデにより仕上げられる。内面に轆轤目が顕著に残らない点から、須恵器の焼成不良品とも考えづらい。また、灰釉が施されないこと、断面矩形で高めの高台を持つことから、白瓷とも考えづらい。

猿投窯で窯跡として確認される青瓷生産は東山 72 号窯式期までであるが（註６）、当窯は初期山茶椀第 3 型式とされる窯である（註７）。東山 72 号窯式期以前の資料の混入の可能性もあるが、猿投窯の青瓷には基本的に器面にヘラミガキが施され、東山 72 号窯式の標式窯である東山 72 号窯跡出土の青瓷素地にもヘラミガキが残存している。今後他の事例を含め検討の必要な資料ではあるが、ここでは初期山茶椀第 3 型式期に、ヘラミガキの消失した青瓷の生産があった可能性を示すものとして捉えたい。愛知県陶磁美術館保管。

３．上田厚子氏寄贈資料

令和 2 年度に、上田厚子氏から猿投窯東山地区の出土品を寄贈いただいた。上田氏が昭和 33 年以降、開発で破壊された窯跡等の遺跡で採集された陶片を保管されていたものである。猿投窯東山地区の様々な地点の出土品があるが、中でも遺跡名が特定でき最も重要度

の高い資料群と言える、以下 3 遺跡の出土品について述べる。

（１）東山 201 号窯跡出土品（図１・８）

当窯の出土品については、これまでにいくつかの報告例があり、本稿で提示する資料と同一個体と考えられるものも多い（註８）。

UAH201－1～13 は須恵器である。UAH201－1・2 は杯蓋、UAH201－3～6 は有台杯身、UAH201－7 は無台椀、UAH201－8～13 は甕である。UAH201－14・15・17～20 は白瓷である。UAH201－14・15 は短頸壺、UAH201－18 は椀、UAH201－19 は皿、UAH201－17・20 は鉢である。UAH－16 は青瓷素地で、花文耳皿である。UAH201－1・2・11 は岩崎 17 号窯式～高蔵寺 2 号窯式期、UAH－16～20 は黒笹 90 号窯式期、他は概ね折戸 10 号窯式～黒笹 14 号窯式期に比定できる。

本窯の発見当初から注目されてきた出土品として、青瓷素地の花文椀が知られている（註９）。猿投窯東山地区の青瓷生産は、生産窯数の少なさと、早くに窯の破壊が進んだこともあり不明瞭な点が多く、本窯出土の青瓷素地は数少ない貴重な情報を伝えている。そうした中、今回の調査を通して、本窯の出土品としては初例である青瓷素地の花文耳皿片（UAH201－16）が確認できたことは、特記できる成果である。

（２）東山 212 号窯跡出土品（図１・２・９）

当窯の出土品は荒木実により報告されている（註９）。

UAH212－1～4 は白瓷である。UAH212－1～3 は輪花椀、UAH212－4 は椀である。UAH212－1～3 については、荒木実の報告で提示された資料と同一個体と考えられる。初期山茶椀第 3 型式期に比定できる。

（３）城山古墳群出土品（図１・10・写真 1）

本資料群は名古屋市城山町 1 丁目 27 番地から出土したものである。当地点は城山 1 号墳と同 3 号墳の中間あたりに位置する地点で、本資料群は城山古墳群に関わるものとして、これまでにも報告されてきた（註 10）。本稿で提示する資料の中には、これらの報告に掲載されている資料と同一個体と考えられるものも多い。窯跡出土資料ではないが、猿投窯東山地区と関わりの深い資料として、合わせて本稿で扱うこととする。

UASK－1～10 は円筒埴輪である。いずれも黒斑が無いことから、野焼きではなく窯で焼かれたものであることがわかる。UASK－1～8 は、焼成が甘いものから良好なものまで幅があり、橙色～茶色を呈する。UASK－9・10 は他よりも焼成が良好で、灰色系に焼きあがる須恵質埴輪である。

以下各個体の器面の様子を述べる。横ハケの分類については、川西宏幸の分類を用いる（註 11）。UASK－1 は内面が C 種横ハケ、外面が縦ハケの後 C 種横ハケで仕上げられる。UASK－2 は口縁上端及び口縁部内面が回転ナデで仕上げられ、他は内外面ともに C 種横ハケで仕

上げられる。UASK－3 は内面が C 種横ハケで仕上げられ、外面は縦ハケで仕上げられる。タガは回転ナデにより仕上げられる。UASK－4 は内面が粗い横ナデ、外面が縦ハケの後 C 種横ハケで仕上げられる。UASK－5 は内面が B 種と考えられる横ハケで仕上げられ、外面は縦ハケで仕上げられる。UASK－6 は摩滅が激しく不明瞭だが、内外面とも横ナデで仕上げられているものと考えられる。UASK－7 は内面が粗いナデ、外面が縦ハケの後 C 種横ハケで仕上げられる。UASK－8 は内面上方が回転ナデ、同下方が回転ヘラ削りで仕上げられ、外面は横削り及び指ズレ・紐ズレ痕がある。底部には切り離し痕が沈線状に残る。UASK－9 は内面が指おさえ及び不定方向ナデで仕上げられ、外面が C 種横ハケで仕上げられる。タガは回転ナデにより仕上げられる。UASK－10 はタガが剥離したもので、外面が回転ナデで仕上げられる。本体との剥離面には、円筒埴輪本体外面の縦ハケがうつった痕跡がある。

以上の資料は、城山古墳群が猿投窯東山地区の中に所在していることもあり、当地区の須恵器窯で併焼された埴輪である可能性が高いと考えられる。

おわりに

以上、猿投窯黒笹地区及び猿投窯東山地区出土資料について、調査報告を行った。基礎的な報告と時期比定にとどまる記述となったが、今後他窯の資料を交え、分析・検討を行う機会を持ちたい。

黒笹地区は、鳴海 32 号窯式期以降爆発的に窯数を拡大し、奈良時代後期から平安時代前期にかけての猿投窯の中心的な地区となるが（註 12）、本稿で扱った 3 窯はそれより前の岩崎 25 号窯式期以前のものである。当地区の操業開始から爆発的な拡大に至る過程を考える上で、これらの資料は今後有効な資料になり得る。また東山地区については、本格的な発掘調査がなされないまま破壊された窯が多く、本稿で紹介した資料は当地区の分析・検討を行う際に、重要な資料となる。

今後も引き続き、猿投窯をはじめとする須恵器・瓷器窯出土資料の基礎的調査を継続していく予定である。

［註］

（１）大西遼 2018「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅰ―猿投窯東山地区及び尾北窯篠岡地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査―」『愛知県陶磁美術館　研究紀要』23　愛知県陶磁美術館。大西遼 2019「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅱ―猿投窯東山地区及び尾北窯出土須恵器・瓷器の考古学的調査」『愛知県陶磁美術館　研究紀要』24　愛知県陶磁美術館。大西遼 2020「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅲ―猿投窯東山地区出土瓷器の考古学的調査」『愛知県陶磁美術館　研究紀要』25　愛知県陶磁美術館。

（２）註（１）文献。

（３）註（１）大西遼 2020。

（４）愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編 窯業１ 古代 猿投系　愛知県。愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史』別編 窯業２ 中世・近世 瀬戸系　愛知県。
（５）註（４）愛知県史編さん委員会 2007。
（６）註（４）愛知県史編さん委員会 2015。
（７）註（５）文献。
（８）高橋芳子・上田厚子 1972「千種区日和町出土花文の椀」『古代人』22　名古屋考古学会。荒木実・伊藤正人・近藤哲夫・稲波光・他 1973「東山古窯址群における最近出土の須恵器」『古代人』27・28　名古屋考古学会。荒木実 1975「東山古窯址群内よりの最近の出土（その二)」『古代人』31　名古屋考古学会。
（９）註（８）荒木実 1975。
(10) 城山 1 号古墳発掘調査会 1983『城山古墳　城山 1 号古墳発掘調査報告書』八神順一。三渡俊一郎 1979「東山古窯址群内出土の須恵質円筒埴輪」『古代人』35　名古屋考古学会。註（９）文献。
(11) 川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第 64 巻第 2 号　日本考古学会。
(12) 註（６）文献。

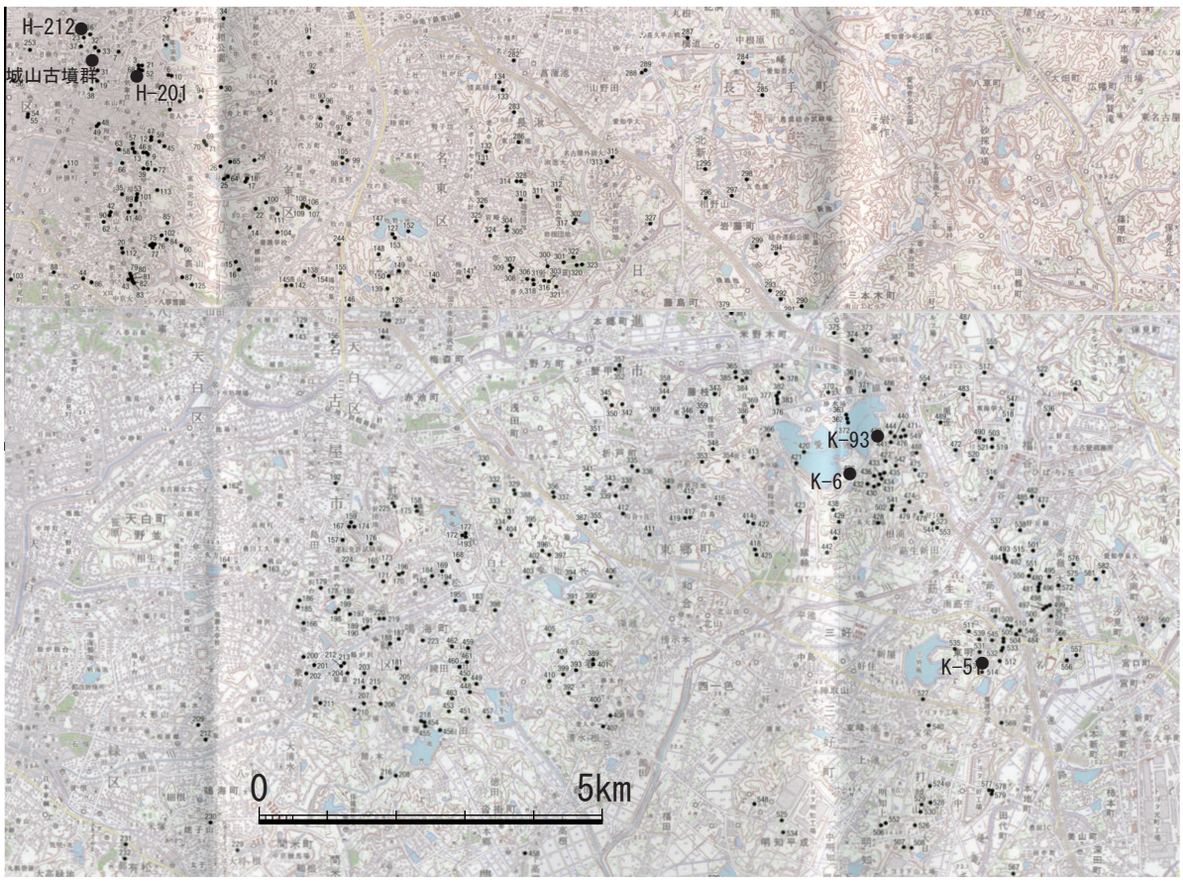

図１　本稿で扱う古代の古窯跡等出土地（註（6）文献分布図を改変追記）

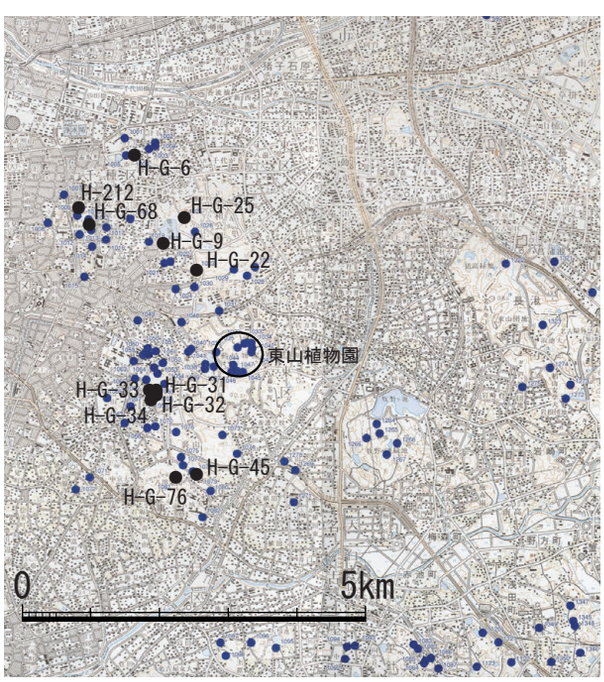

図２　本稿で扱う中世の古窯跡等出土地
（註（5）文献分布図を改変追記）

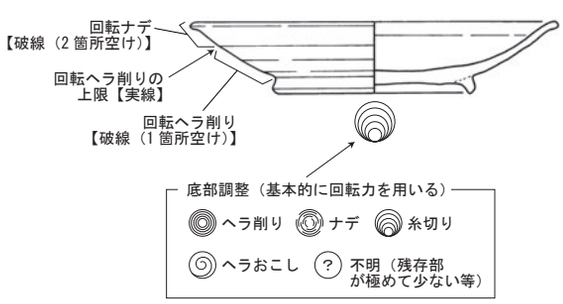

図３　本稿の実測図の表現（註（3）文献に追記）

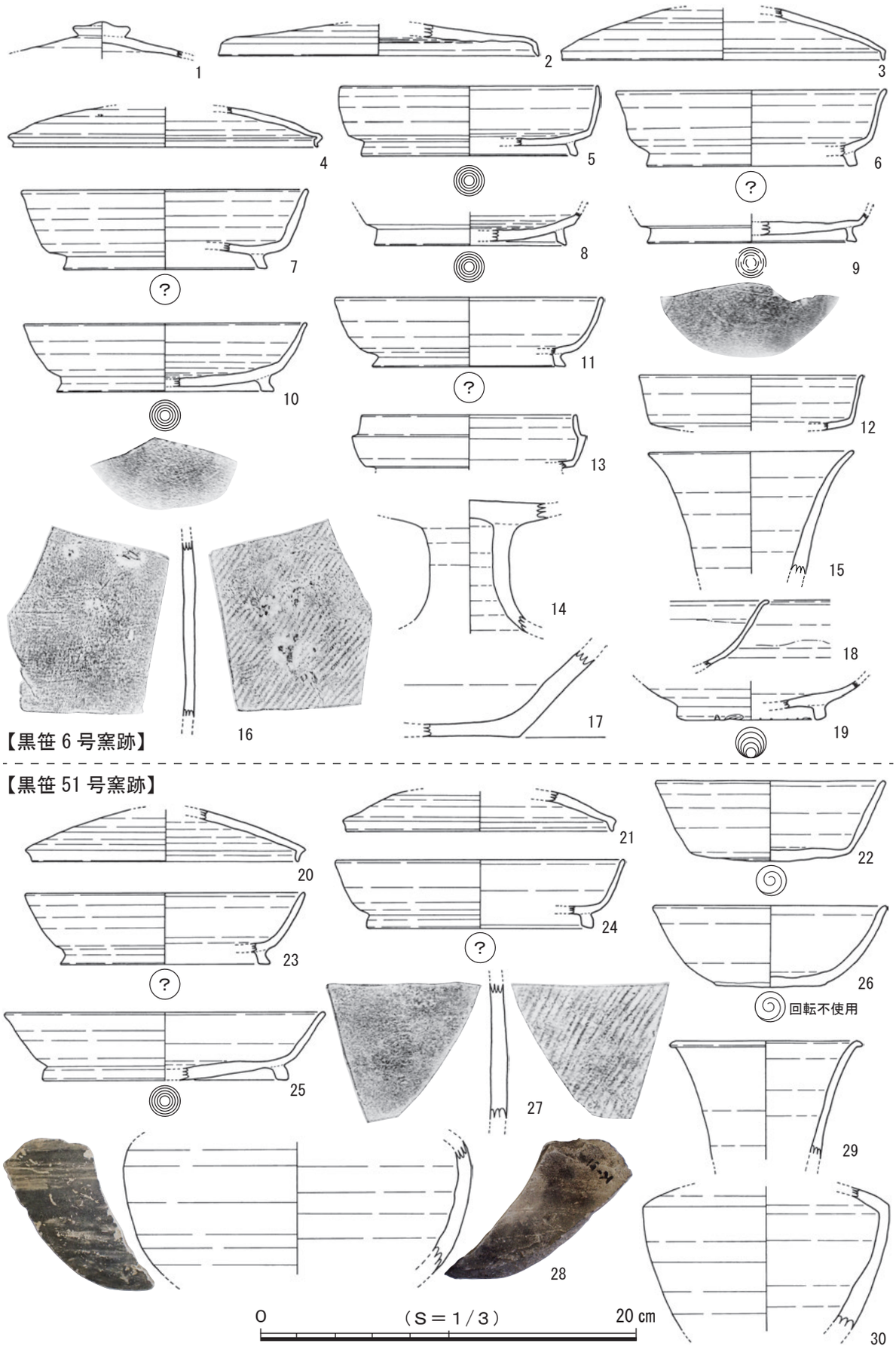

図４　猿投窯黒笹地区出土須恵器①

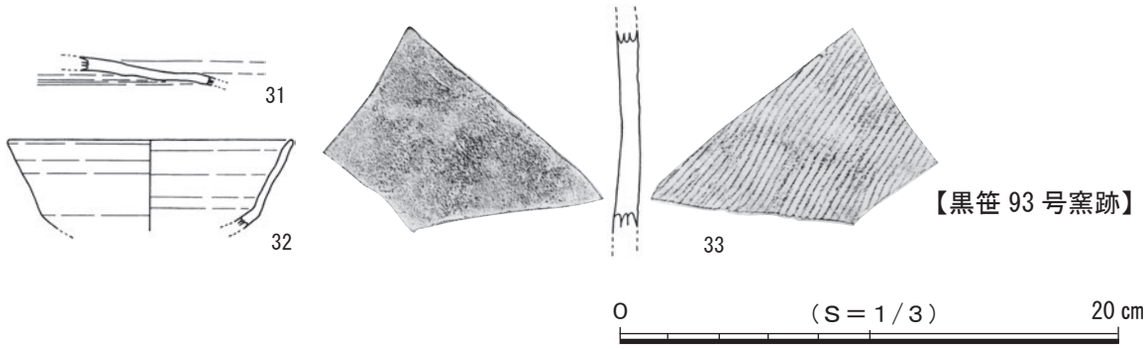

図５　猿投窯黒笹地区出土須恵器②

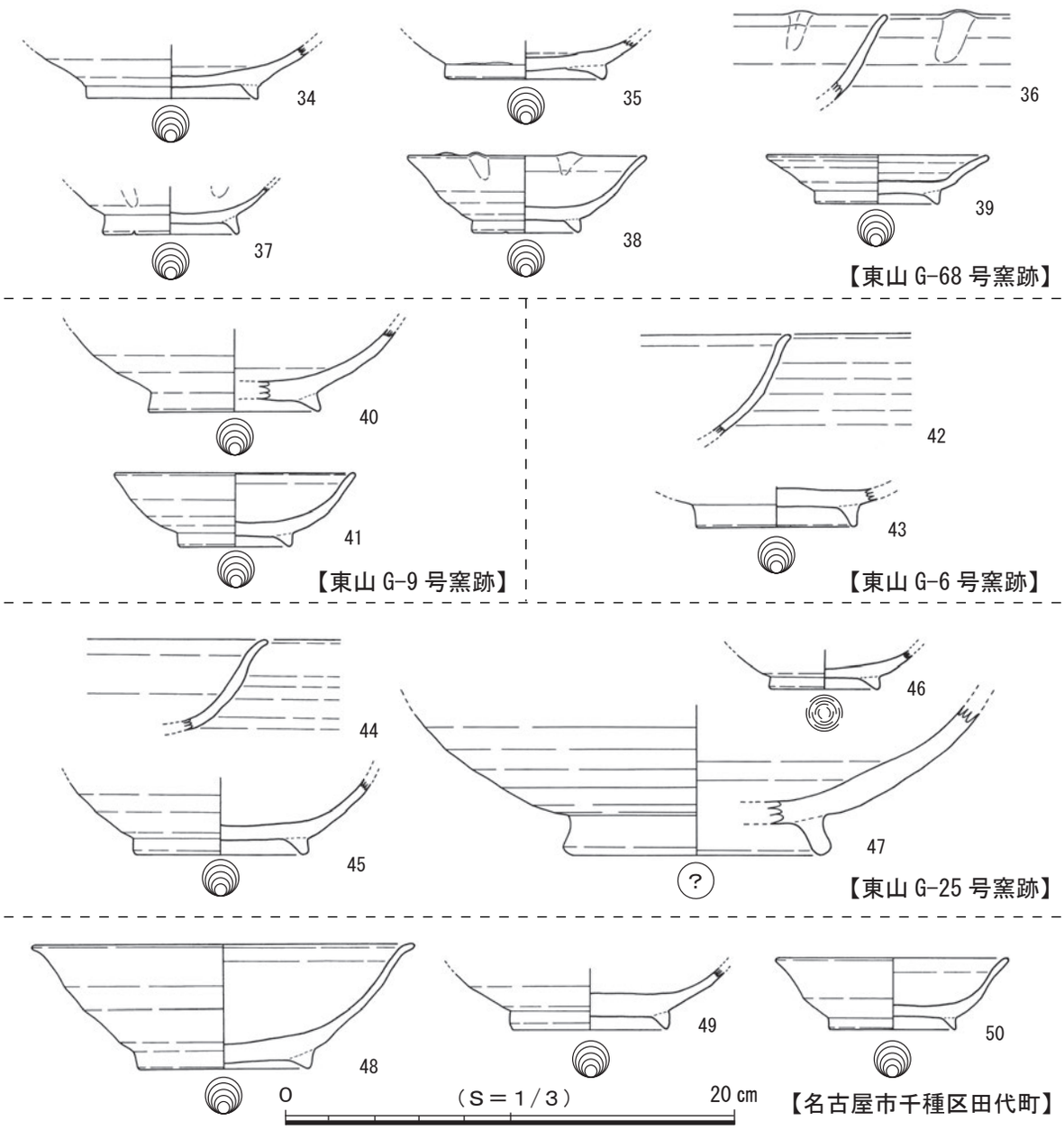

図６　猿投窯東山地区出土瓷器①

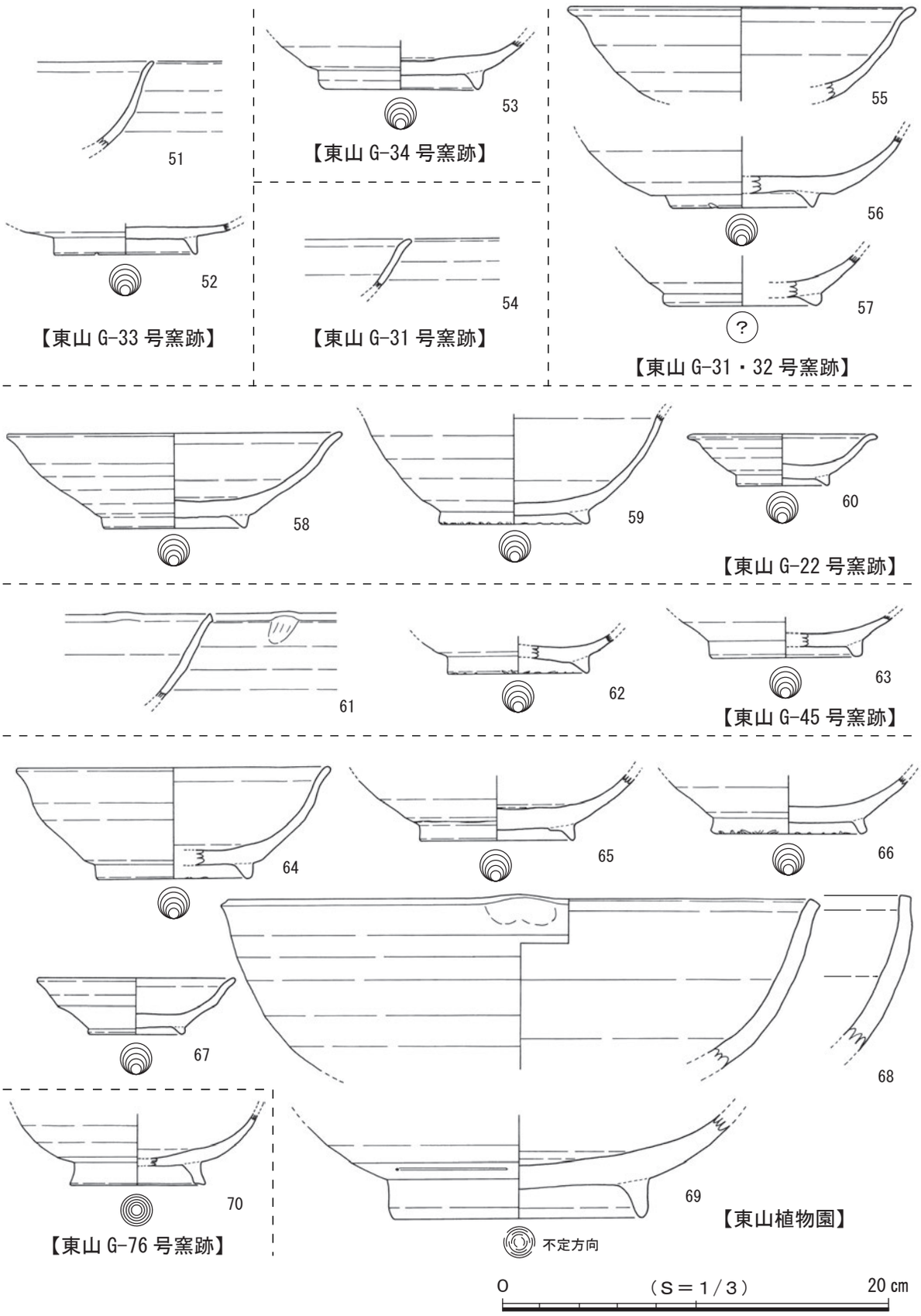

図７　猿投窯東山地区出土瓷器②

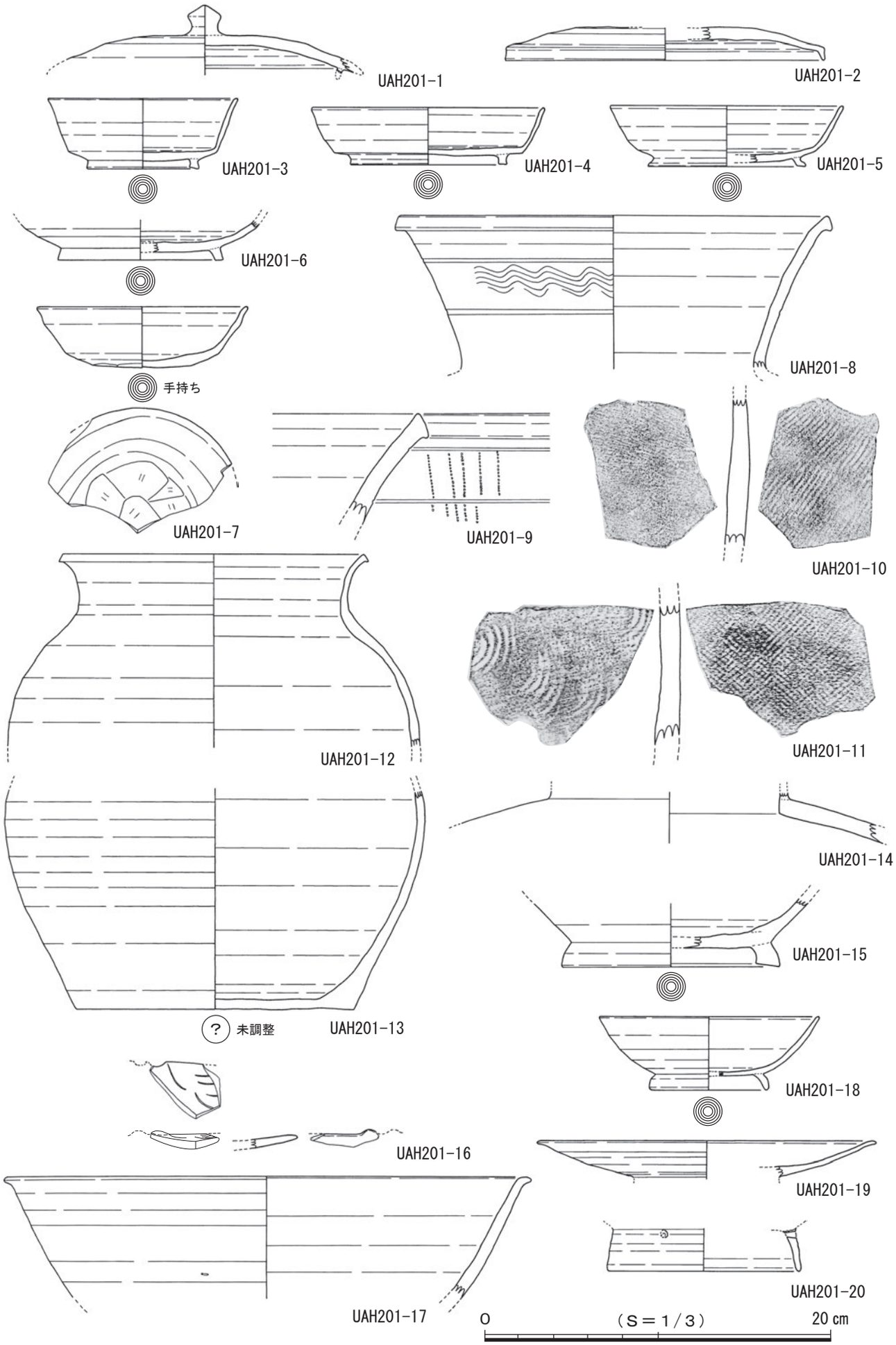

図８　上田厚子氏寄贈資料（猿投窯 東山 201 号窯跡出土）

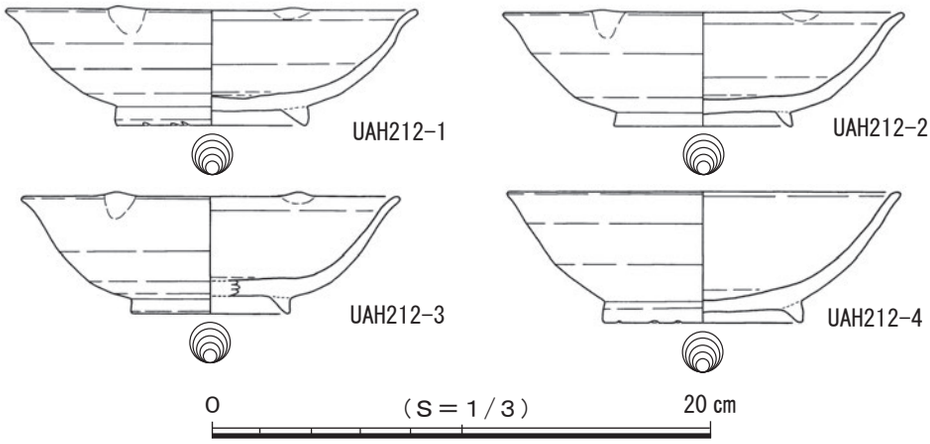

図９　上田厚子氏寄贈資料（猿投窯 東山 212 号窯跡出土）

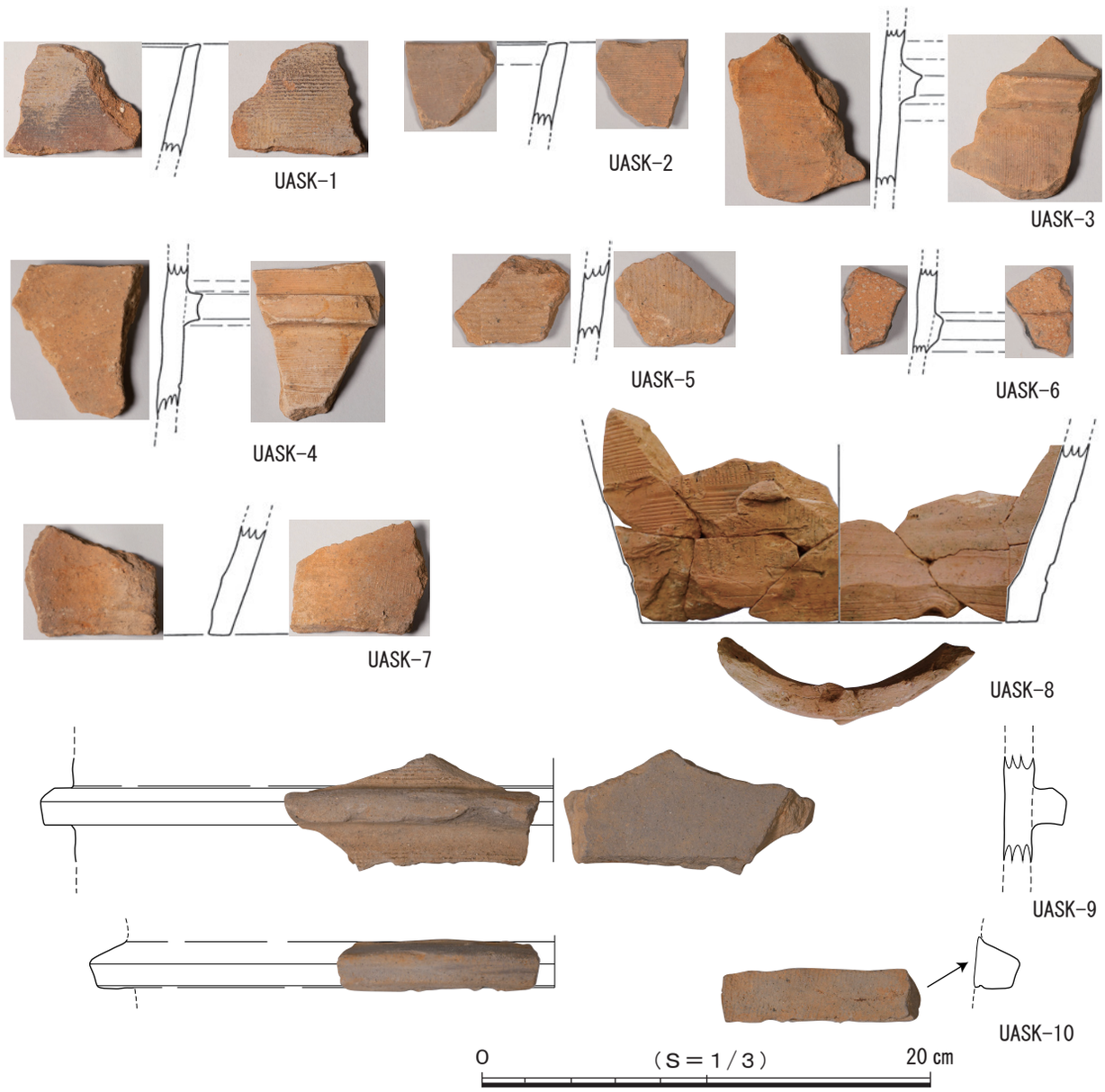

図 10　上田厚子氏寄贈資料（城山古墳群出土）

写真１　上田厚子氏寄贈資料（城山古墳群出土）